

# 2022(令和4)年度事業報告書

自：2022(令和4)年4月1日 至：2023(令和5)年3月31日

## 公益事業 1、写真文化の振興事業

(1) 小学生を対象とした「写真学習プログラム」を全国の小学校16校で指導者11名、参加児童数325名で実施した。このプログラムは、児童たちの興味や関心事に目を向け児童と共に体験を通して学ぶ、「体験、参加型」の学習並びに指導で、写真という優れた記録媒体を使っての「記録・表現することの意味」を理解し、家庭や社会で広く写真を活用してもらおうとの願いがある。(18年間の合計742校25,146名)。富士フイルムイメージングシステムズ(株)及び一般財団法人日本写真アート協会、ウエスタンデジタル合同会社、(株)ケンコー・トキナー、パナソニック(株)、リコーイメージング(株)の6社の協力で行っている。

この児童たちの作品を多くの方々に見ていただこうと、富士フイルム(株)・富士フイルムイメージングシステムズ(株)が主催する「“PHOTO IS” 想いをつなぐ。あなたが主役の写真展2022」での特別企画「“PHOTO IS” 小学生の眼」へ参加児童の作品を毎年展示している。2022年度も139点を9月～12月迄東京と大阪の会場及びオンラインで展示した。

事業遂行に役立てるため、SARTRASの助成金を申請し、承認を得て写真学習プログラム用「見て学ぶ撮影マナー」動画の制作、写真学習プログラム用新テキストの制作、児童における写真著作権、肖像権の意識調査を行った。

(2) 6歳以上の子どもとその家族を対象とした「おやこ写真教室」を5月22日(日)東京都写真美術館1Fスタジオ、11月20日(日)(株)ケンコー・トキナー中野本社セミナールーム&スタジオで行った。それぞれ10組20名、6組12名が参加した。

(3) 技術研究会を3回開催した。

①第1回技術研究会「～Digital Infrared Photography～ デジタルで撮るシュールな赤外線写真の世界」を5月29日(日)東京都写真美術館1Fスタジオで開催、講師は田村拓也(正会員)で20名が参加した。

②第2回技術研究会「ミラーレスカメラ用交換レンズの魅力に出会う」を10月12日(水)JCIIビル6階会議室及びオンラインで開催、講師は田原栄一(株)ケンコー・トキナー)、桑山輝明(株)シグマ)、安藤稔、西角久美子(株)タムロン)で32名が参加した。

③第3回技術研究会「ファインアートペーパーの世界」を2月8日(水)JCIIビル6階会議室及びオンラインで開催、講師は羽賀勝彦(スイーコ・インタナショナル(株))、江口聡(元(株)ピクトリコ)、山本真也(ダイヤモンド(株))、新山洋一(株)コスモスインターナショナル)、司会は増田雄彦(正会員)で70名が参加した。

(4) 第47回2022JPS展を開催した。

公募受付：2021年11月10日(水)～2022年1月15日(土) 審査：2022年2月3日(木)

審査員：野町和嘉会長(審査員長)、石川梵(正会員)、織作峰子(正会員)、佐藤時啓(正会員)、菅原隆治(『CAPA』編集長)

共催：東京都写真美術館 後援：文化庁他

総展示数：513枚(公募212名368枚、会員作品96名134枚、ヤングアイ11校11枚)

応募総数：1,535名、4,764枚(一般：1,382名、4,429枚、18歳以下：153名、335枚)

入賞・入選者総数：212名、368枚(一般部門：179名、316枚、18歳以下部門：33名、52枚)

文部科学大臣賞：橘 毅「こころから『ありがとう』と独り言」5枚組カラー

展覧会 第47回2022JPS展。総入場数：4,390名

【東京展】会場：東京都写真美術館B1F展示室、会期：5月21日(土)～5月29日(日)、入場数：2,937名

【関西展】会場：京都市美術館別館2F、会期：6月21日(火)～6月26日(日)、入場数：1,453名

協力：キャノンマーケティングジャパン(株)、ソニー(株)

『2022JPS展図録』を製作、販売した。

(5) 「2022年新入会員展—私の仕事」を開催した。展示18名54枚

【東京展】会場：アイデムフォトギャラリー「シリウス」、会期：7月14日(木)～7月20日(水)、入場数：467名

【大阪展】会場：富士フイルムフォトサロン大阪、会期：8月26日(金)～9月1日(木)、入場数：2,440名

(6) 「第16回JPSフォトフォーラム」を開催した。

「自然と命を撮るといふこと」を11月12日(土) 東京都写真美術館1階ホールで開催。午前と午後の2回公演とし、合計273名が参加した。

講演：大竹英洋(正会員)、中村卓哉(正会員)、パネルディスカッション：大竹英洋、中村卓哉、野町和嘉会長

司会進行：大塚茂夫(『ナショナル ジオグラフィック 日本版』編集長)

協賛：エプソン販売(株)、OMデジタルソリューションズ(株)、キャノンマーケティングジャパン(株)、(株)シグマ、(株)タムロン、(株)ニコンイメージングジャパン、富士フイルムイメージングシステムズ(株)

(7) 日本写真家協会賞を贈呈した。

写真文化への貢献に対する顕彰として、第48回「日本写真家協会賞」を株式会社ケンコー・トキナーに贈り、贈呈式を12月7日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。

贈呈理由：「1957年設立の株式会社ケンコーは、株式会社トキナーとの合併により、2011年に株式会社ケンコー・トキナーとして誕生し、光学と映像の分野で様々な製品を開発し、事業を展開している。特に、60年以上の歴史を有する「ケンコーフィルター」は、プロからアマチュアまで多くの写真家に愛用され、その創作意欲や作品制作に多大な貢献をしてきた。さらに、近年には、本社内に「ケンコー・トキナーギャラリー」を開設し、作品発表の機会を提供するとともに、写真家の活動に対して同社内のセミナールームやスタジオを無償で提供するなど、写真家とその活動をサポートしている。これらの支援活動や製品、およびそれらを通じた写真文化への貢献に対して」

(8) 2022年第17回「名取洋之助写真賞」の公募を行った。

公募：新進写真家の発掘と活動を奨励するため、35歳までの新進写真家を対象に、同一テーマの作品(プリント)30点を提出。プロ写真家から在学中の大学院生まで、9名10作品の応募があった。選考委員は山田健太(専修大学教授)、清水哲朗(正会員)、野町和嘉会長の3名。

受賞者：「名取洋之助写真賞」該当者なし、「名取洋之助写真賞奨励賞」鄒楠「燕郊物語ー中国の白血病村」(モノクロ30点)。授賞式を12月7日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。

受賞作品写真展：東京展 2023年1月20日(金)～1月26日(木)、富士フィルムフォトサロン東京、入場数5,046名  
大阪展 2023年2月17日(金)～2月23日(木)、富士フィルムフォトサロン大阪、入場数2,559名

(9) 第5回「笹本恒子写真賞」受賞者を選出した。

選考：有識者の推薦による実績のある写真家の候補者を、選考委員 佐伯剛(『風の旅人』編集長)、前川貴行理事、野町和嘉会長の3氏により選考を行った。

受賞者：西野嘉憲、授賞式を12月7日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。

受賞理由：「写真集『熊を撃つ』『海人ー八重山の海を歩く』に結実した、伝統的な狩猟や漁撈に生きる人たちを対象とする、長年にわたる真摯な取材活動と傑出した作品に対して」

受賞記念展：西野嘉憲写真展「狩りたてるもの」 2022年12月22日(木)～12月28日(水)、アイデムフォトギャラリー「シリウス」、入場数496名

## 公益事業2、写真文化の啓発事業

(1) 専修大学ジャーナリズム学科「フォト・ジャーナリズム論」(2020年4月に旧「報道写真論」から変更)に米田堅持、高橋智史の会員2名を派遣した。この講座は、学生たちの真実を見抜く目を育て、批評力と行動力を養うことを目的とし、メディアの第一線で活躍する写真家や実務者に実作と体験談をもとに、いまメディアの現場で、何が起きているかを理解してもらうことを目的として平成23年度に開設され、当協会は講師派遣を委託されている。

(2) 文化庁委嘱事業「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」

2022年度の収集・調査を行った写真家と原板資料受け入れ状況は、笹本恒子538点と広島平和記念資料館2点(累計受入数347,677点)。国立映画アーカイブ相模原分館フィルム保存庫への写真原板の入庫作業は2022年6月16日、10月20日、2022年2月22日の計3回行い、計29,462点を収めた。写真原板の入庫内容は、秋山忠右1,280点、和木光二郎303点、杵島隆194点、岩宮武二1,028点、岩波写真文庫11,152点、高木康允276点、高野伸二3,615点、芸艸堂391点、ホレス・プリストル846点、杉村恒2,528点、奈良六大寺大観5,115点、大和古寺大観1,804点、醍醐寺大観217点、平等院大観711点、広島平和記念資料館2点、合計8名・6団体29,462点。(累計159,983点)2014年度から発足した日本写真保存センターの作業に係る費用を支援いただくための支援組織は、会員数11社1団体。(株)アイデム、エプソン販売(株)、(株)キタムラ、キヤノン(株)、(株)シグマ、(株)写真弘社、(株)タムロン、凸版印刷(株)、(株)ニコン、富士フィルムイメージングシステムズ(株)、(株)フレームマン、(一社)日本写真著作権協会。

(3) 写真に関する著作権の普及、啓発事業

①写真著作権セミナー「知っておきたい写真著作権セミナー」を東京と京都で開催した。2022年5月28日(土)東京都写真美術館1Fホール、4回開催して参加者のべ223名。2022年6月25日(土)、26日(日)京都市勧業館「みやこめっせ」大会議室、4回開催して参加者のべ189名。講師：吉川信之著作権委員会委員長、棚井文雄日本写真著作権協会常務理事。

②著作権に関する「JPS写真著作権相談室」を開催。メール等による相談件数は13件(内、会員6件)。

③会報著作権研究 連載53「スマホが変えた『リアル』の定義と肖像権意識～『素顔』を撮られたくない若者たち～」佐々木広人(株)キュービック)。連載54「SNS時代の肖像権とスナップ撮影～『作家性』と同様に大事な『どう映るか』問題～」佐々木広人(株)キュービック)。

④Web上での写真著作権の問題点を研究した。

⑤著作権の情報収集と公表を行った。

⑥日本写真著作権協会(JPCA)との写真著作権に関わる事業協力をを行った。

(4) 『日本写真家協会会報』を年2回、178号、179号を発行した。  
178号・追悼特集 田沼武能氏を偲ぶ、第47回2022JPS展入賞作品紹介、JPS2022年新入会員展「私の仕事」など。  
179号・焦点「写真家の役割、写真の力」、第16回JPSフォトフォーラム「自然と命を撮るということ」など。

(5) インターネット、ホームページ、フェイスブックを利用したサービス業務。日々の更新、内容の見直しと変更及び修正。協会事業の公開など。EC（エレクトロニック・コマース）サイトの運営。

(6) 写真に関する国際交流事業

新型コロナウイルスの感染拡大防止により従来型の国際交流セミナー、研究会の開催が困難なため、協会ホームページ上で「表現者たち」と題する発表を行う。

Vol.9 「運命の『#7』に導かれて ～『ナパーム弾の少女』を撮った報道写真家 ニック・ウト氏～」

Vol.10 「ボーダーで共存できる世界を目指して」渋谷敦志(JPS会員)

Vol.11 「光と影の物語 太陽と月をとらえる魔術師 インド人写真家・クルティク・タクール氏の”Light Meets Shadows”」

Vol.12 「祖国を守る～日本の報道写真家が見たロシア侵攻後のウクライナ 2022年春」宮嶋茂樹(JPS会員)

(収益事業)

### 収1事業、書籍、物品の販売事業

- (1) ネガカバーなど写真整理用品や「JPS腕章」とPRESSステッカーの製作及び販売をした。
- (2) 海外プレスカードの発行をした。

(その他の事業 共益事業等)

### 他1事業、ニュース、名簿の製作発行事業

- (1) 『JPSニュース』を年6回 (No. 596～601) 発行した。
- (2) 『会員名簿2022』増補版を2022年5月に発行した。

### 他2事業、祝賀会の事業

- (1) 2022年度の会員相互祝賀会を12月7日(水)、アルカディア市ヶ谷で開催した。

### 事業報告書の付属明細書について

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成いたしません。